

SIDR 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

週報 平成 25 年 (2013 年) 第 48 週 (11 月 25 日～12 月 1 日)

発行年月日:平成 25 年(2013 年)12 月 5 日
 発行 行:滋賀県感染症情報センター
 滋賀県衛生科学センター 健康科学情報担当
 電話:077-537-7438 FAX:077-537-5548
 e-mail:ef4505@pref.shiga.lg.jp

- 報告数の多かった感染症は感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、水痘
- RS ウイルス感染症は前週と比べて減少したが、過去 5 年の同時期と比べると多い
- 感染性胃腸炎は前週より著しく増加
- 水痘は前週より増加

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

診断週	類型	報告数	詳細情報
第 48 週診断例	一類感染症	0例	
	二類感染症	結核 4例	肺結核:3例、結核性心外膜炎:1例
	三類感染症	0例	
	四類感染症	0例	
	五類感染症	0例	
第 47 週以前の診断例(*)	二類感染症	結核 3例	肺結核:2例、結核性胸膜炎:1例

(*) 第 1 - 47 週に診断され第 48 週に報告された症例

2. 全数報告の感染症の累計報告数と保健所管内別報告数

平成 25 年第 1 週以降に診断された疾患を集計して累計報告数を滋賀県と全国について下の表に示しています。また、本週報の当該週に報告された症例数を保健所管内別に示しています。なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し、掲載しています。

分類	疾患	滋賀県		保健所別(48週)							平成25年累計		平成24年累計 [※]	
		47週	48週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国
二類	結核	3	4	2	1	1	0	0	0	0	257	24,441	254	28,951
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	132	0	213
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	3,790	37	3,765
四類	レジオネラ症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	16	1,050	10	898
五類	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	962	13	931
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	260	4	235
	急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	327	3	361
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	190	2	183
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	191	3	243
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	1,397	9	1,427
	侵襲性インフルエンザ感染症 ^{※※}	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	95	—	—
	侵襲性肺炎球菌感染症 ^{※※}	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	802	—	—
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,123	1	891
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	122	14,291	12	2,391
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	0	5
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	215	1	285

※ : 感染症発生動向調査事業年報暫定数(国立感染症研究所感染症疫学センター 平成25年3月現在)

※※ : 平成25年4月1日から感染症発生動向調査の対象感染症として追加

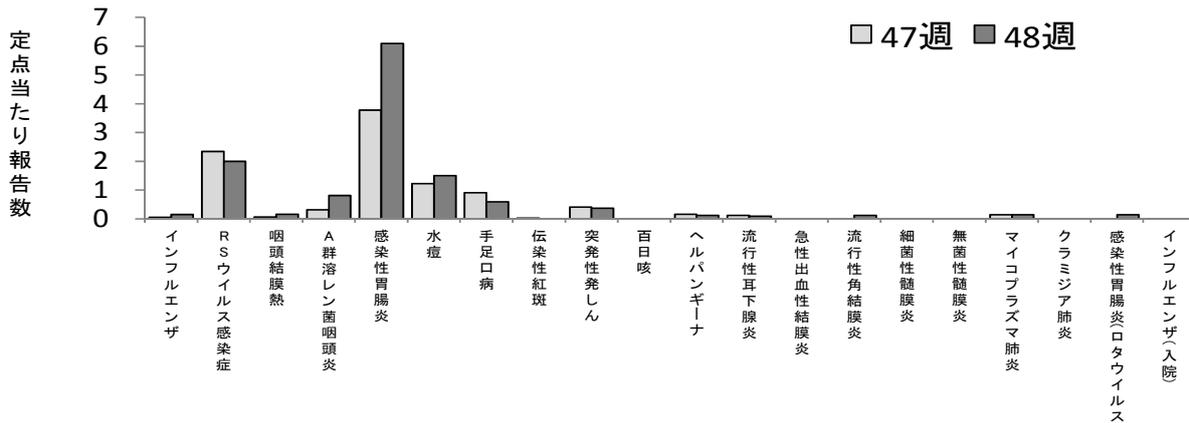
3. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

警報： なし

注意報： なし

- 1) 報告数の多かった感染症は感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、水痘です。
- 2) RSウイルス感染症は先週と比べて減少しましたが、過去5年の同時期と比べると最も多い報告数です。甲賀(4.75)、東近江(3.80)および高島(6.50)保健所管内より多く報告されています。
- 3) 感染性胃腸炎が著しく増加しました。大津市(6.71)、東近江(6.00)、彦根(7.25)、長浜(9.00)および高島(7.50)保健所管内より多く報告されています。
- 4) 水痘が増加し、過去5年と同様の推移を示しています。甲賀(2.25)および長浜(2.25)保健所管内より多く報告されています。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



4. 定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

感染症発生動向調査事業において、滋賀県が指定した定点医療機関(指定報告機関)から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。週単位(月曜日から日曜日)で報告される感染症について、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています(定点当たり報告数=報告数/定点医療機関数)。

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(48週)						
		47週	48週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ (53)	インフルエンザ	0.06	0.15	0.73	0	0	0	0	0	0
小児科 (32)	RSウイルス感染症	2.34	2.00	0.57	0.67	4.75	3.80	1.00	0.25	6.50
	咽頭結膜熱(プール熱)	0.06	0.16	0.14	0	0.25	0.40	0.25	0	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.31	0.81	0.57	1.33	0.25	0.40	0.50	1.50	1.50
	感染性胃腸炎	3.78	6.09	6.71	4.83	2.25	6.00	7.25	9.00	7.50
	水痘	1.22	1.50	1.71	1.17	2.25	0.80	1.50	2.25	0.50
	手足口病	0.91	0.59	0.86	0.17	0.50	0.80	0.25	0.25	2.00
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0	0	0	0	0	0	0	0
	突発性発しん	0.41	0.38	0.43	0.17	0.75	0.20	0.25	0.25	1.00
	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	0.16	0.13	0.14	0	0	0	0	0	1.50
眼科 (8)	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.13	0.09	0	0.33	0	0	0.25	0	0
	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基幹 (7)	流行性角結膜炎	0	0.13	0	1.00	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0.14	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※	0	0.14	0	0	0	0	0	0	1.00
インフルエンザ(入院)※※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

* 平成25年10月14日の滋賀県感染症発生動向調査事業実施要綱改正に伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり報告数)を掲載

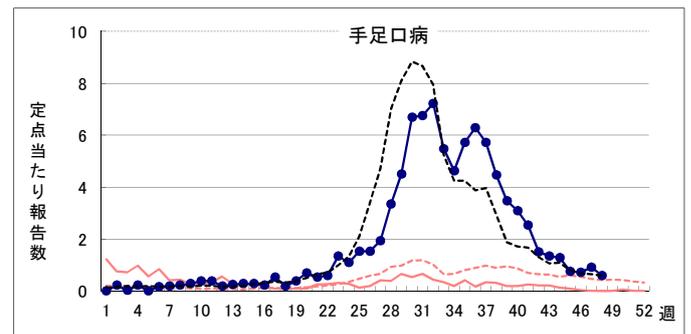
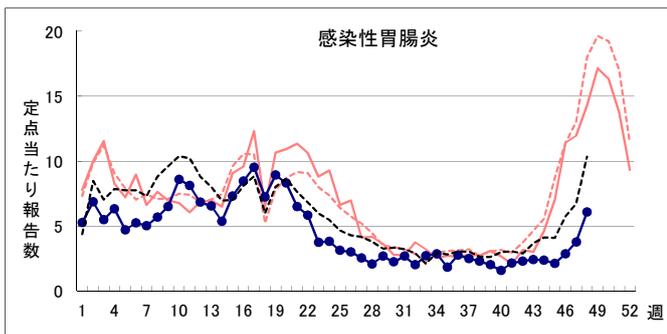
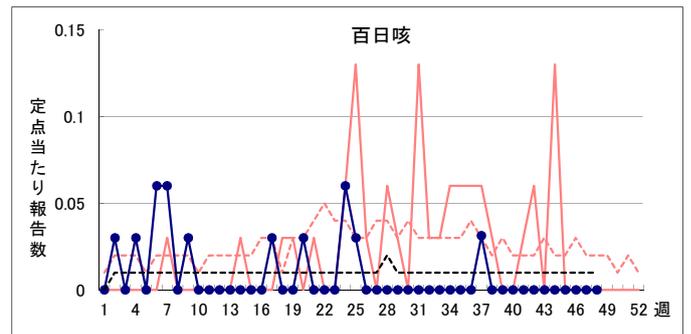
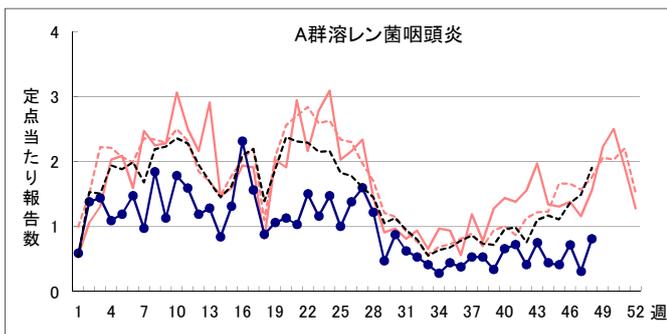
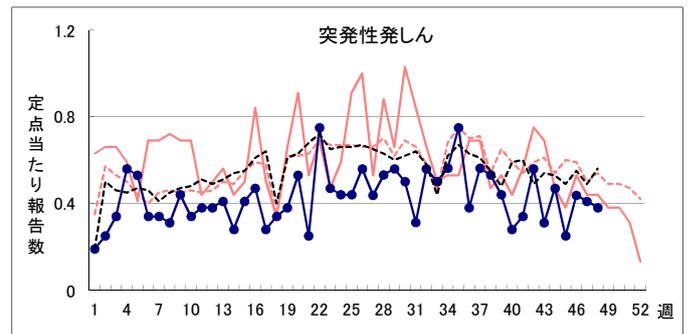
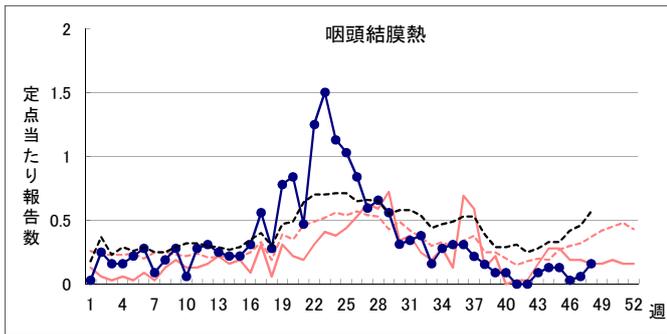
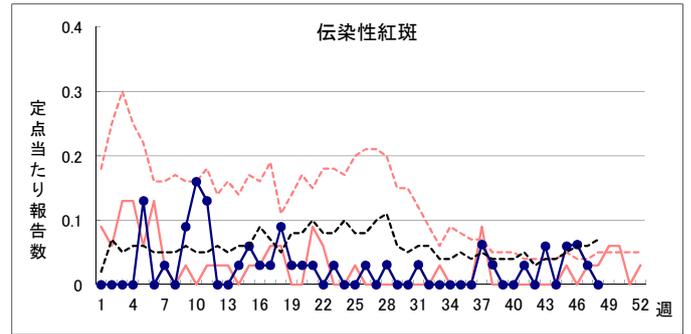
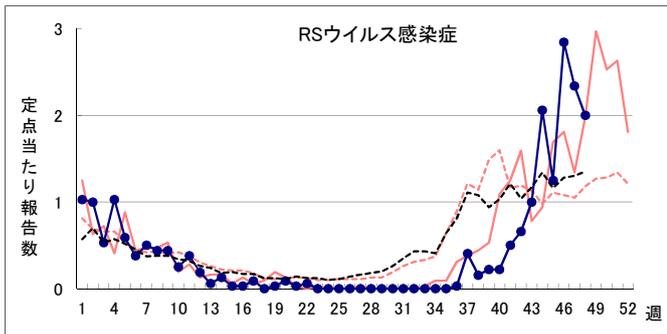
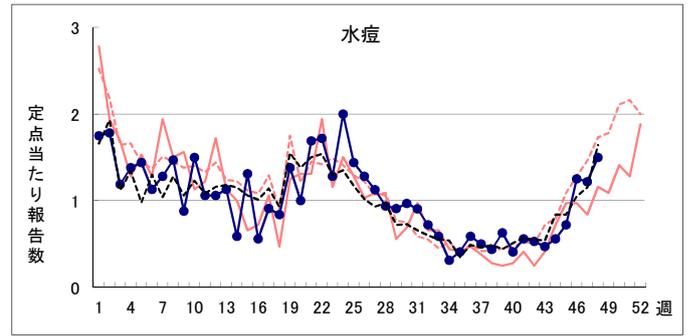
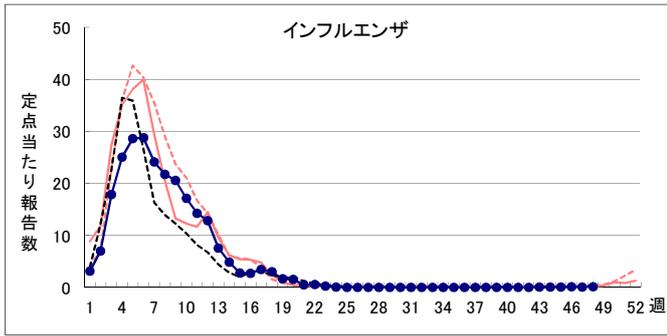
* 平成23年9月5日からインフルエンザ入院サーベイランスが開始されたことに伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり報告数)を掲載

赤字： 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過

紫字： 注意報レベルの基準値を超過

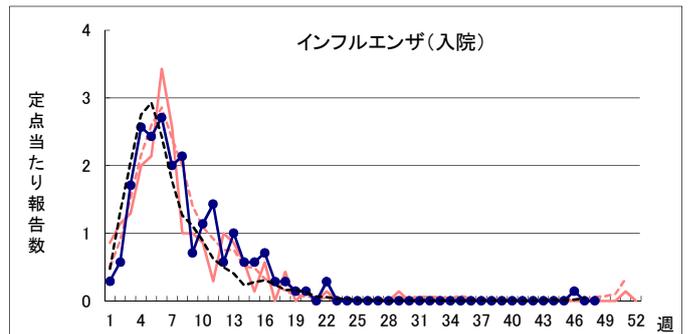
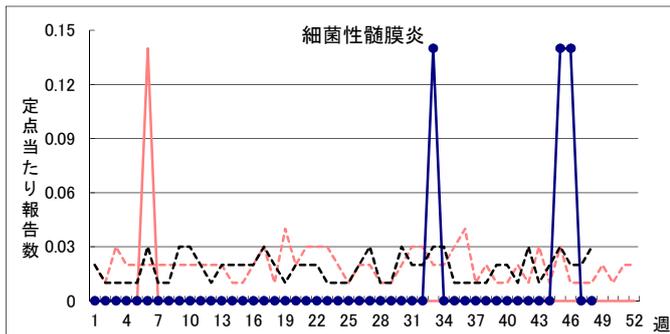
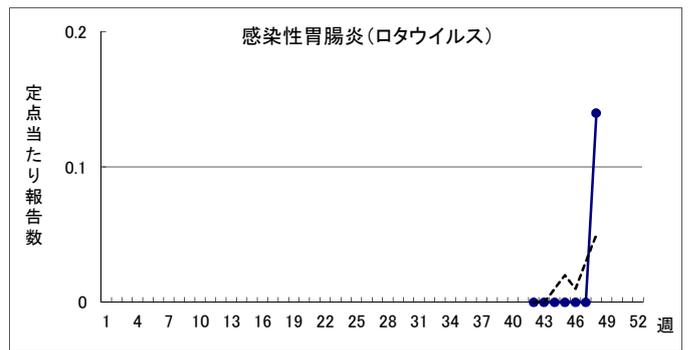
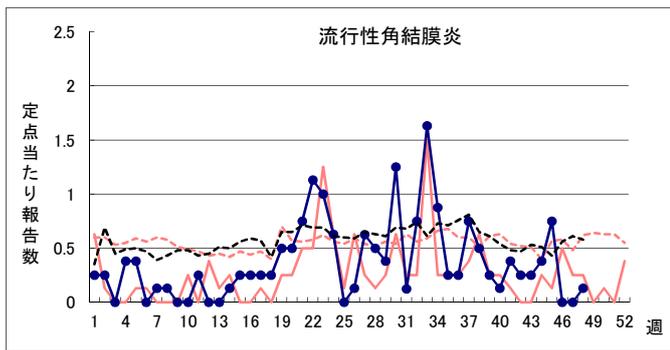
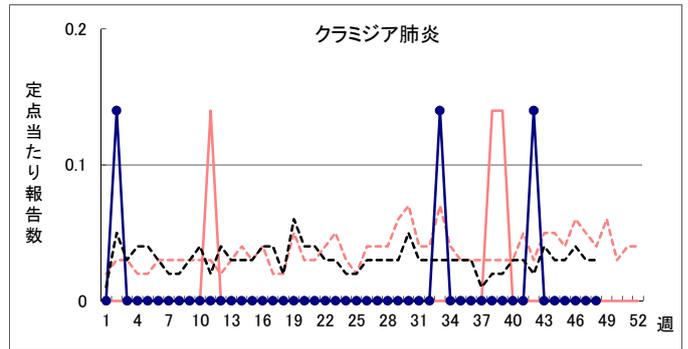
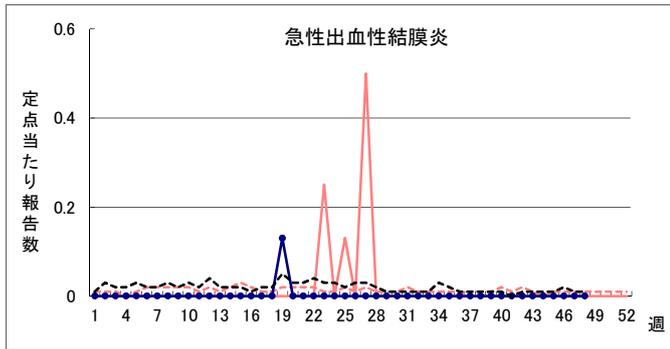
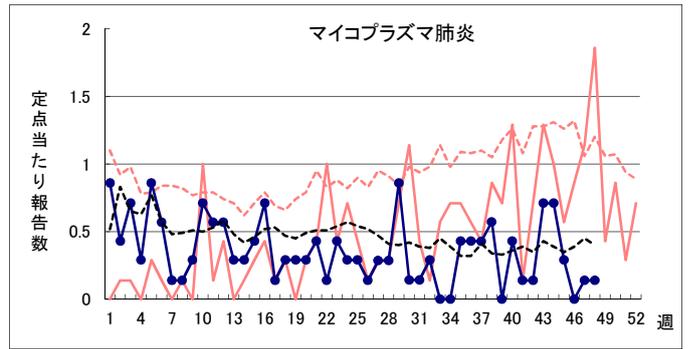
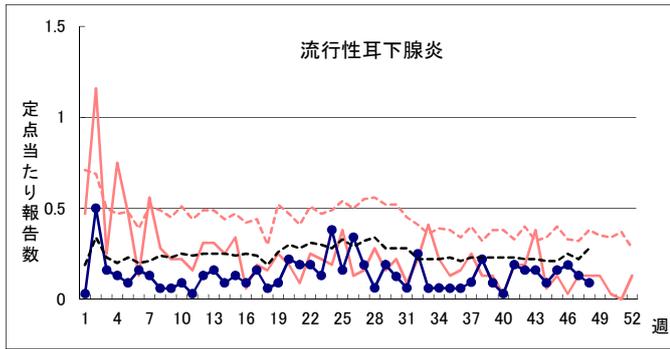
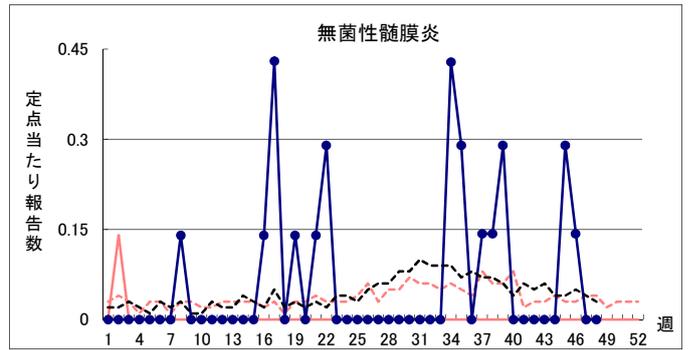
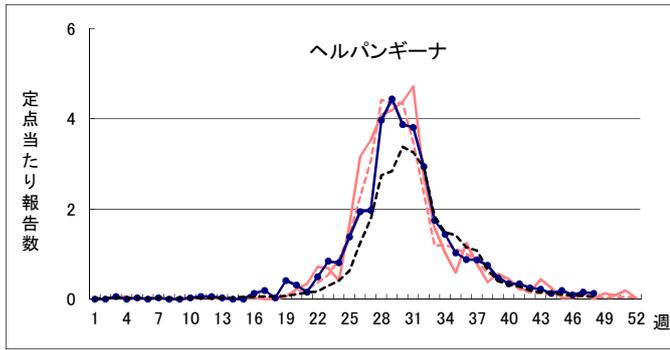
5-1. 疾病別定点当たり報告数

H24 [滋賀 ———— 全国] H25 [滋賀 ●——● 全国] 平成25年第48週



5-2. 疾病別定点当たり報告数 平成25年第48週

H24 [滋賀 ———— 全国] H25 [滋賀 ●——— 全国]



RSウイルス感染症の発生動向 平成25年第48週

1. 第48週のRSウイルス感染症の定点あたり報告数(2.00)は、第47週と比べると減少しましたが、過去5年間の同時期と比べると最も多い報告数です。
2. 甲賀(4.75)、東近江(3.80)および高島(6.50)保健所管内で多く報告されています。
3. 第47週に報告された症例は58%が1歳未満、99%が3歳以下です。
4. 例年、患者報告は9月以降に徐々に増加し、12月にピークを迎えています。

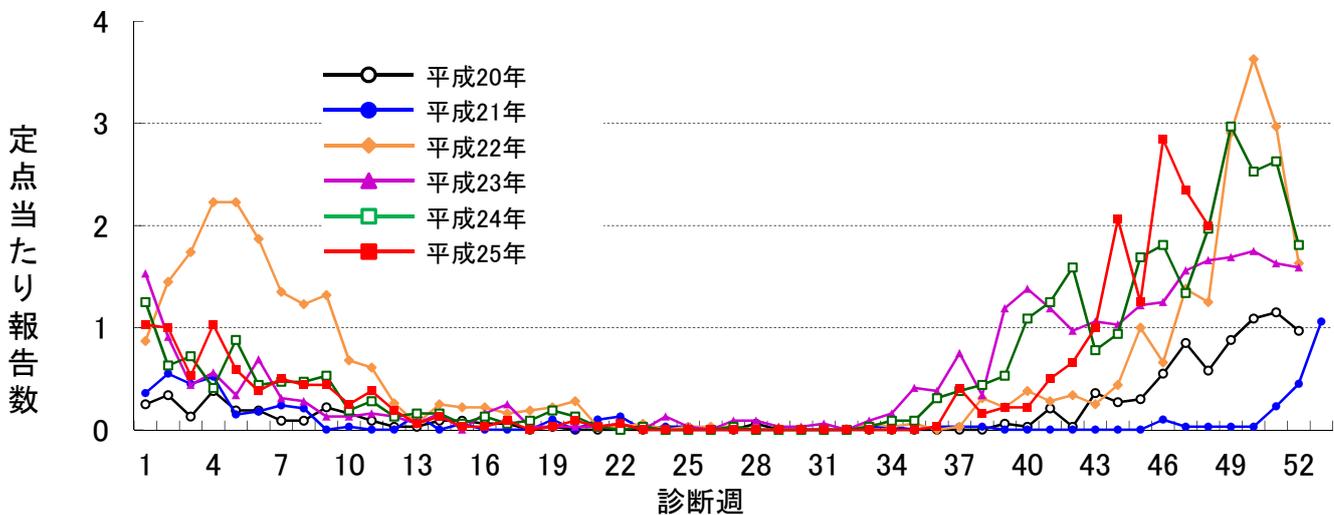


図1. 診断週別定点あたり報告数(平成20年第1週ー平成25年第48週)

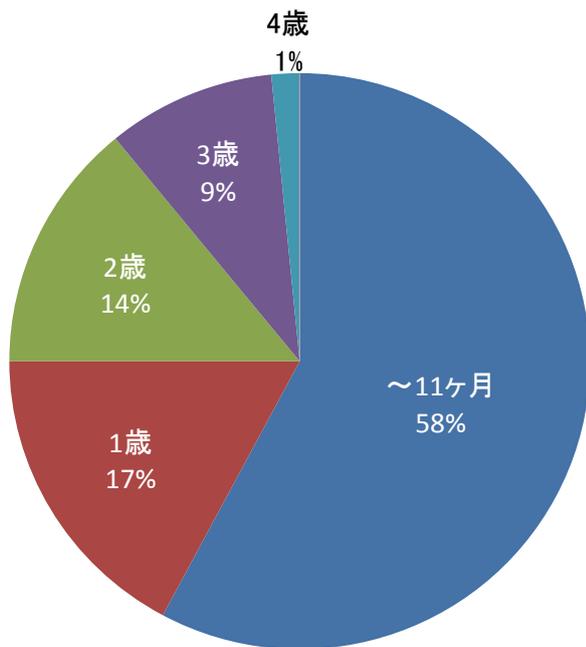


図2. 年齢割合
(平成25年第48週、n=64)

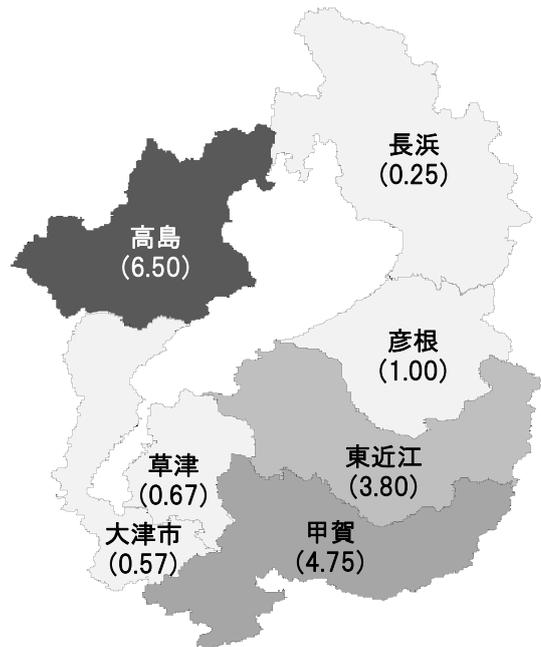


図3. 保健所別定点あたり報告数
(平成25年第48週)

感染性胃腸炎の発生動向 平成25年第48週

感染性胃腸炎は県内の32の小児科定点医療機関より患者数が届出されていますが、患者は幅広い年齢層に存在することが考えられますので、本調査で得られる年齢分布は実際の発生状況を反映していない可能性があります。

過去の調査によって、冬季の感染性胃腸炎の多くはノロウイルスやロタウイルス等のウイルス感染が原因であると推定されております。特に報告数がピークを示す時期の原因の多くはノロウイルスであると推定されています。

1. 感染性胃腸炎は先週と比べて大きく増加し、定点あたり報告数が5.00を超えました。
2. 大津市(6.71)、東近江(6.00)、彦根(7.25)、長浜(9.00)および高島(7.50)保健所管内で多く報告されています。
3. 例年、患者報告は12月にピークを迎えます。

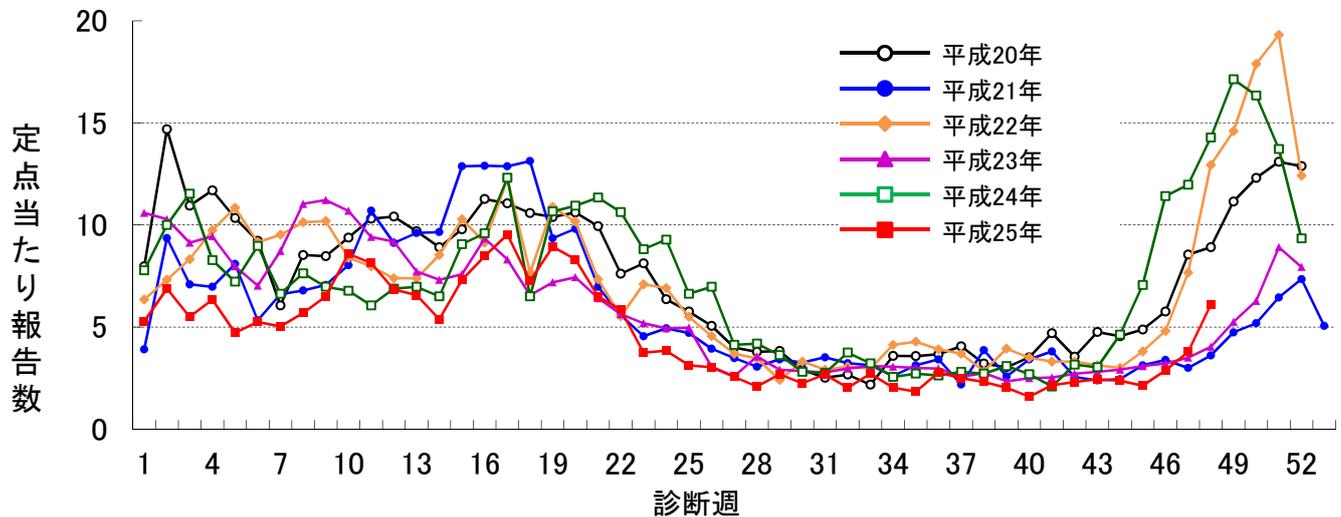


図1. 診断週別定点あたり報告数(平成20年第1週—平成25年第48週)

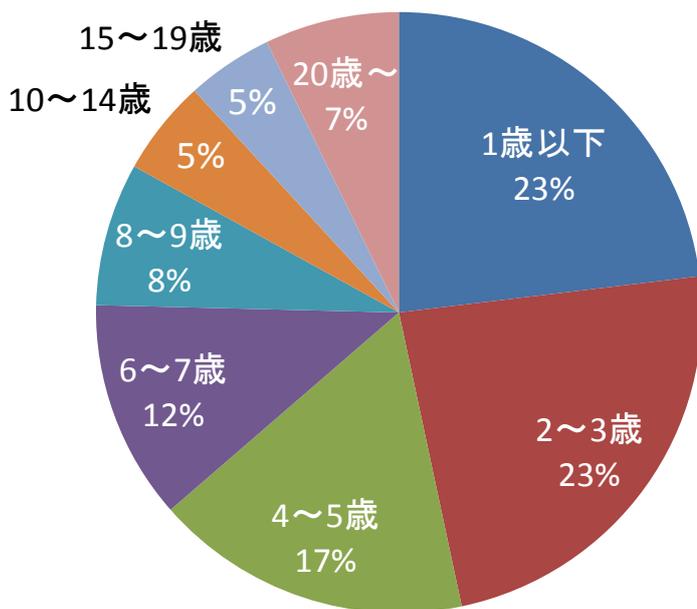


図2. 年齢割合
(平成25年第48週、n=195)

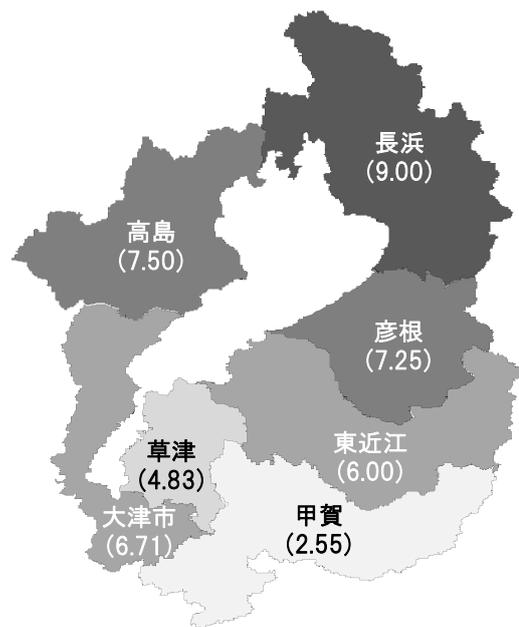


図3. 保健所別定点あたり報告数
(平成25年第48週)